

コーティング指針の概要と調査検討の方針

コーティング指針の概要（抜粋）

【塗装の種類】

- エポキシ系塗装（エポキシ樹脂、ポリオール樹脂）
- タールエポキシ系塗装（エポキシ樹脂、ポリオール樹脂）
- ガラスフレークコーティング（以下「GF」という。）
（ビニルエステル樹脂）
- ガラス繊維強化プラスチックライニング（以下「FRP」という。）
（ビニルエステル樹脂、不飽和ポリエステル樹脂、エポキシ樹脂）

【塗装方法】

- 最小膜厚
- 施工環境（雨天でないこと、被塗面の温度等）
- 下地処理（研削材：けい砂、スチールグリッド、除錆度、表面粗さ等）
- 表面清掃
- 塗布方法（刷毛、ローラー、スプレー）等

【施工後の評価方法】

- 外観試験、ピンホール試験、膜厚試験、硬度試験（FRPのみ）

【既存コーティングの評価方法】

- 外観試験、ピンホール試験、膜厚試験
- 膨れ箇所の塗装の合計面積は、塗装面積の20%（FRPにあっては40%）を超えてはならない。

【危険物の種類】

- 原油、重油（常温、加温）
60℃以下の加温タンクに対してタールエポキシ系にあっては適用不可、GFにあってはノボラック系ビニルエステル樹脂等の高温に適するものに限る。
- 灯油、軽油、ナフサ、ガソリン、ジェット燃料（常温）

【塗料、樹脂の品質】

- エポキシ系塗装、タールエポキシ系塗装
容器の中での状態、乾燥時間、塗装作業性、塗膜の外観、耐衝撃性、耐アルカリ性、耐酸性、耐揮発油性、耐塩水噴霧性、耐湿性、混合塗料中の加熱残分
- GF、FRP
容器の中での状態、乾燥時間、塗装作業性、塗膜の外観、耐衝撃性、耐溶剤性、温度差耐水試験、温水浸漬試験

【耐用年数】

- エポキシ系塗装、タールエポキシ系塗装：16年
- GF：20年又は26年（常温タンクにおいて最小膜厚400μm以上かつ平均膜厚700μm以上であって、膜厚分布に著しい偏りのないビスフェノール系及びノボラック系ビニルエステル樹脂に限り（平成23年追加））
- FRP：20年

調査検討の方針

制定から約33年が経過していることから、新たな技術・知見を踏まえてコーティング指針の見直しを行うもの。